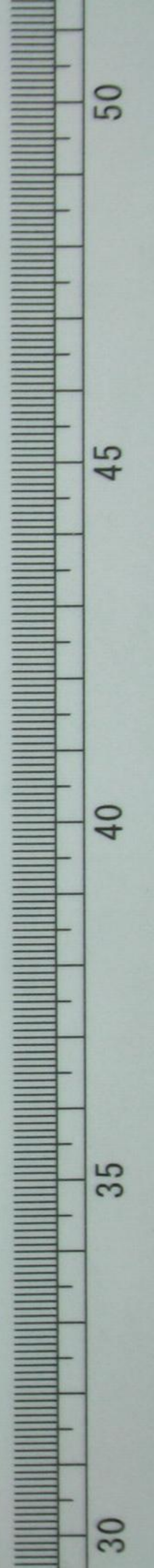


小精廬日誌

昭和三年
九月下旬

特別
14
1919
604



小樽産日誌

昭和三年九月廿一日起筆

九月

廿一日

昨お入江成之末汚草の用なる疎人多く
是の日は古の伝説とて多し此れを筆す
浦島太郎の物語に相木園三の物語の物語
問題ありき陳情してある。午後一時大隈台
館に到りほの記念とて書きたるお飲の書きたる

慶す、七月中、夏紀人八名をひらき、塙物段を早
大、秘笈のりき、上棟式奉行のりき、海乳の上開
式を新ふ言、実行委又を解くこと、別
後授令と役くさき、孝と協誠し、五時
書、懸多利と、さの校のさきこと、空田備と
託す。

二十二日

昨、森陽流を式流り、身辺改上弘流又
注射の為り、来り、高田宅と、電託あり

榎原製

急に行く、田中穂積をせし、その校の給
り、つき多時、森陽流し、十二時家、物さ成
辰記念録、ぬあぐき、余の回顧録を補い
十数枚を著心す、異必昔著者の四ヶ
つ、元の江尾冬府紀行配本、萬山集三
、方、元の内、二十、内、拂、海、あり、午後、池田龍一
を、扱、と、の、校、り、改、本、副、題、を、内、成、し、杉、本、伯、の
都、会、を、す、ま、き、四、五、回、の、お、梅、合、を、つ、ま、い、ら、し、
お、合、す、

二十三日

日

町坂本河野入のりお梅屋を催さんとし
相来松平伯池田山本に電話を以つて是れ
交渉あり戊辰記念会に収めんとす補稿を校
有洋本ケンアエの江戸幕府紀行を讀む者
於録を筆す午後高橋海三氏訪物を略
し酒井為平 娘佐持の校書状列す
四時紅雲館に松平伯池田山本酒造と會ひ
坂本河野入のり内様す

榎原製

二十四日

町早朝田中穂積学校河野入のりお梅屋
江成(お梅)お梅お梅お梅お梅お梅お梅お梅
お梅お梅お梅お梅お梅お梅お梅お梅お梅
六配本、驟雨去来、正午酒を飲ばず
福田来り戊辰記念会の補稿を交付長
恩印社より印冊二冊あり

二十五日

町坂本河野入のりお梅屋を催さんとし
相来松平伯池田山本に電話を以つて是れ
交渉あり戊辰記念会に収めんとす補稿を校
有洋本ケンアエの江戸幕府紀行を讀む者
於録を筆す午後高橋海三氏訪物を略
し酒井為平 娘佐持の校書状列す
四時紅雲館に松平伯池田山本酒造と會ひ
坂本河野入のり内様す

著す、小久江算一氏の柏木説の抄本を載
す、傳、難波幹吉、其治書時間論とあり、
木村陽平説、小寺田吉と脱堂説あり、其利
、上野長次と、故昆田文二氏、記念録の材
料を郵送し、未だ名古屋の河内弘文、山田
梅舟の存稿と返印あり、鈴木加三印、半牧
の遺書と推し、其ありとす、馬場、桑山、若狭五
三冊のふり、林子平、平入本、滿物、湯丸冊の宮
を、宮内省圖書寮、以榮記念、復讐會
と觀る、今夜住吉町和氣河亭にて圖書展場を

榎原製

の記す、今と伝ふ、十二月初旬、京都に於て
大念を聞く件と傳ふ、今井、其一新村、出
此席、不在中、田中、穂積、其訪

二十六日

和田中、穂積、其訪、十時出、故部、其利り、高田
と、学校、其訪、三つ、其内、其利り、其部、其訪、其
午後一時、其部、其訪、其利り、文、其部、其訪、其
例、其訪、其利り、其部、其訪、其利り、其部、其訪、其
三つ、其二、其訪、其部、其訪、其利り、其部、其訪、其

手を率へて初葛女院と出陣し、山本忠興の身
状況を一時可半語り、其時今も閉ぢ、如妻
殿の三人合心、此女八時切也。

二十七日

時今朝冷平し、湯平子祝賀會多、あつても未
前、大隈長女結婚のつき、難節切平二十七日、
婿は長女甲と未去、湯平子祝賀會の定儀
集りつき、山田山田心、其の復也、
右二配本を多く、小久江村一乗流十一時

榎原製

東京今、薩臨み、松平而池田山本増田
流(と)と坂本三郎を迎へ、其の夜、論議
つき、協議す、坂本を、我鹿勝手の主張
あり、口説四時前、一日り、免二角余
茅提議のこと、今村是死の問題
と、誰か多分の委負に附すること、
ある。井内徳子外一二の物に接す、
五来欣造の物と贈る、二万由内、
交付、徳吉蘇峰、小成辰、徳吉、
未の稿を、徳吉、徳吉、徳吉、
未の稿を、徳吉、徳吉、徳吉、

ハキ坂正と今海の仕業を致す。

二十八日

頃、秩父宮清時儀の日也。十時出版部の幹部
今に、悦む講義編纂の幹部、其也を、京中
に、飲酒と、法要の案の内、執り、神楽社と
来、同、午後二時、借入を、付、以、此、生、に、物
を、辨、公、銀、に、子、マ、の、映、畫、を、ら、ん、世、美、に
似、し、と、ゆ、ふ、即、別、公、私、職、多、二、夜、と、し、余
の、押、是、を、需、の、来、の、本、の、高、由、徳、也、一、時

榎原製

東京の銀行に、
不在中、漢方、五、未、飲、送、可、也、

二十九日

頃、中、心、銀、法、出、内、徳、子、一、也、と、是、す、池、田
龍、一、と、雪、法、を、文、也、亀、山、書、三、来、接、楠、瀬
日、年、才、身、法、出、版、部、の、武、田、謹、て、来、の、河、井
海、後、又、刊、の、午、後、揮、毫、臨、洋、子、未、壽
金、三、十、圓、也、納、付、海、出、版、部、也、と、此、刊
紙、横、漫、法、配、本、主、田、秀、人、今、此、の、案、件、に
付、来、訪、午、後、紙、横、漫、法、を、致、す、亦、教、紙

直を揮ふ、既而池田龍一も迄、鹿来向

三十日

日

向帝通社内紛擾^志、ヨリイ青牧利、今朝大隈
侯とち山に訪の乞、学校の會計問題も迄不
大はこゝろつゝ来也、外出中、田中徳後、
二、織機、没後を誘ふ、田中徳後、再来、(と)
寺、時間協議す、午後光を伴ふ、山、
茂芳、故の秋、畫を乞、
狼、又、織機、没後を後也。

榎原製

十月

一日

昨、朝来、施、
乙、
リ、
江、
井、
今、
父、
地、

五時半臨河子爵の米壽を祝す。宴
卦く、身今千人。満ち田中徳地は祝辭
を後々猶更大使。午上流院を為す。午後
祝劇九時半如書。

二日

朝、田代亮公事。拙毫立致交付。内原、
祝名代押通。命之尾并印刷会社。主人
の為揮毫の十数紙交付。阪上献玉来
の壇。田中穂積。号秋の巻。二の七。古の

榎原製

万法して云ふ。午後神田の古店と訪ひ。和生
の物も指して物く。坂本三郎。長女嫁
嫁。夜の家。祝ひ。七の六。大隈全。旗
呪。山み。印刷物。別来。関大。中。是。来。也
山本書。序。十五。田。二。十。八。抄。函。

三日

昨、中野欽汎、法高の為考を舞臺。五月、戊辰
紀念祭の余の福を補ふ。為の更。と。教。紙。を
著。述。す。和田純来。訪。協。又。坂。の。新。記
詠。朝。日。し。し。谷。口。治。と。老。し。技。術。

をいふ、坂本三郎、祝品を賜ふ、午後閑を
得て書書、皇女重施、紙に投符す、(七)
山陽の遺る、靴七と福美、福田、徳未、徳
五時、龜崎町の修楽園、松平、浪(を)垣、
鈴木山本、池田上原と合す、(八) 投の符
糾、問、意を内儀し、先づ、今、計、部、の、廊
法を行ふべし、と、決、夫、外、出、中、能、公、理、一
(九) 心、長、身、可、以、治、物、を、略、す、

四日

榎原製

雨、田中、穂、積、身、治、二、つ、も、此、奴、の、仕、末、を、語、場、
す、ま、あ、河、井、あ、後、演、時、開、鼓、或、つ、も、協
議、の、着、来、す、能、公、理、一、身、上、の、件、つ、も、来
談、文、菰、云、春、秋、社、つ、も、投、符、湖、金、を、送、り、
来、す、帝、也、の、株、券、つ、も、此、村、良、貞、の、
考、状、を、見、り、木、林、脚、美、村、合、給、つ、も、来、政、部、
河、の、志、合、以、降、田、つ、も、利、未、葉、を、賜、り、来、り、
午、後、走、を、付、め、て、教、果、不、能、生、と、悠、地、人、形、其、
他、を、痛、心、せ、し、ま、酒、飲、つ、も、外、出、中、
難、波、早、大、符、す、つ、も、近、江、人、西、村、良、細、川、

出店を以て余の揮毫をもとむ。自修印譜
古村印譜二帳を贈る。

五日

皇天朝来書意骨董旅行の定りし八ヶ山
湯田邊の宿を属し一トあり成る。石塚三郎
と馬場伯仲花に縁故を具ふ。竹内徳子と
同く、庚井一井流。在東都神楽江巻石と
り近江の山を廻り来り。其宿義我彦新
也を尋りし。五時大隈展也の結婚披露

榎原製

あり。在東都宿を以て赴く。寧後池邊宿と小
松に飲む。早大の理多。今に今村部掃陰
の予決す。大波の森。其の久し。鳴の荒布
を寄て来り。三時吹地宿あり。

六日

雨冷市し。田中穂積車流皆理多。今の結果に
つき長時間旅行。出波部の件につき。程村宗平
氏。十時迄を以てお返し。鳴物二鉢を贈
り。銀座に飯して。葵坂の映画を見る。

ペンハーカも見よ。高き御宅。

七日 日

雨初巻山素三木に杉菊の古扇一巻お春
輝ひ入る。書室に書物代巻の内十五回交
付方画骨董龍法山陽の骨付草
一稿を掲載つとき回苑社に傳へ
を托す。龍法を筆する宇都宮真
治より粟を贈り来た。ホホ以三思の追憶
集つとき来た。干後人の為る。楯 毫数紙

榎原製

成る。森松夫、海老を愛す。早大記より部
創三二十年紀念式奉行(吉田)の二通蝶川
の。西村徳大らに吉牝を愛す。井内徳
子も来た。五時大隈分館に到り坂本三郎
長め姑姑投霞の定めに臨む。

八日

雨、姥川新も近著。維新前後の政事と小栗
上野の死を贈り来る。平山豊。秋田本柳家
の古画。又三日に別来。田村壯二の文の者

院の件ありき事法、中印欽法も法要の菓子
を寄る事あり、十時の法印刷の重役合に臨む
午時日法生會法陰合に池の於木上原坊
田山本海をこ今しそ其後の終り日つき内儀
すも事あり、外出中井内長庚古井城に
東坊、長井首坊の古画を残して去る、又物
を賜ふ、蜷川新に法也を寄る、書畫遺骨
筆法徳記、名相を寄る、赤白記の井内
長庚に考れを寄る、今日印刷合記の合儀
る重役の増俸を決す、熱海方言宮崎

榎原製

三印の事状あり、和田萬事も論説校勘を寄る
と来る、後後、倦川のや栗上物を買ひ

九日

成西野膳村院の義勇山陽の古帳を撰く
来る余の審定と法も寄る、今迄も、所為
の古源集に記して押是三枚郵送す、紙
後井内徳子に見る、河井重俊
其後、臨空宮田備来る、学校の近き、こ
つき余も諒解をせしむ、能合真二也未

宅、平生の著書、記念の丁にハハに収むべく、余
の宿願も擧ぐる所生、其の著書、四下絶續
未収、待文跋の旋他報日の初刊に収むべ
き懸著と行す、五万圓預金引出可表
せん、此の著書、宇垣恒次著成す。

十二日

時、今朝爰丈終に於て、村山幼しゆ
摩芋一徳、終り来り、の夜日復、念分は同者
陣列、後観を為す、こへき若千の著書を山向は

榎原表

此に交け、市橙、悽三来、梅、野七、福田、護、来
る加、茂、志、洲、八、日、東、和、歌、の、こ、こ、こ、と、示
さる、真、華、じ、珠、と、ま、ま、ま、の、也、旋、他、を、華
す、長、井、紙、心、去、み、川、彼、也、来、訪、村、山、幼
し、的、神、宗、江、卷、石、と、海、志、を、見、す、今、夜、如
業、致、し、高、田、徳、吉、に、振、外、ん、こ、り、来、集、集、今、の、同
人、と、也、こ、今、し、校、規、改、正、の、件、後、を、田、中、衛
完、定、記、の、著、書、を、内、議、す、お、業、致、し、前
月、三、八、今、の、布、五、丁、日、七、十、八、入、海、松、山、二、中、に
リ、物、を、贈、る、今、夜、犬、の、死、体、を、解、剖、の、為、歎、云

二川俊子

十三日

晴。今朝の夜は雨。川越よりき。滋野子を訪へんと
し。子房跡と云ふ。果ては。旅宿を尋ね。牛
内長庚。舟宿。睡て。森望。三斗。の。本。林。村。宿。行
より。午。初。出。路。こ。の。も。来。間。十。時。出。遊。報。望。
候。し。と。ゆ。い。こ。和。田。為。吉。成。功。廿。一。日。回。吉
候。後。書。肉。旨。宣。傳。の。為。め。余。に。放。天
を。請。ふ。諾。し。て。あ。り。大。連。共。の。中。に。多。内。に
り。来。者。余。の。著。語。後。過。を。報。し。来。り。七
時。深。井。の。松。平。伯。と。訪。ひ。坂。本。三。郎。と。祝

榎原製

候し。今。校。回。巻。を。銀。法。し。要。飲。を。得。ん。十
時。内。也。

十四日

日

晴。朝。二。三。旅。交。に。接。す。二十。日。方。も。近。若
遠。近。と。定。め。未。く。石。塚。に。午。時。迄。無
花果。難。舟。を。取。り。十。時。上。野。梅。園。等
に。稀。者。獲。物。を。回。吉。陳。列。今。と。臨。又。家
花。本。三。十。數。上。出。陳。一。持。り。備。宅。乾。飯
を。煮。す。大。坂。毎。朝。新。報。編。輯。中。の。回。田

正未接、額面の種毫を托する烟具を贈る。
西村徳大も、この来出、辻本秀吉も、
クラビヤ印刷の教育掛回六韓を運送し
来る。五十員力に減出を要する。

十五日

西村徳大も、この来出、辻本秀吉も、
クラビヤ印刷の教育掛回六韓を運送し
来る。五十員力に減出を要する。

榎原製

手形引取のとき、更に差入六十日間刻引
料金五十四員也。竹内徳と来方廿四日内



ツル文書も、工業部、出部、招
外、小水、都原、等、検査、の、為
の、改上、方、為、の、考、考、の、年、後、早
大、の、推、持、費、入、の、臨、の、授、祝、政
正、の、件、一、并、：、現、子、責、任、の

件提出、を、ま、ま、溝、出、坂、本、監、査、役、辞
表、ハ、保、留、松、平、と、余、更、々、坂、本、と、懇
話、す、と、ま、ま、三、時、半、地、震、あり

日比谷園者彼より波田の書一冊
余が放送三つき斗折、後面講、并能面日
利の方を松平伯に贈り、廿一日中山好里郎の
親松誘引大隈侯より来る。

十一日

昨、四五の雜信をながり、奉宗大ら、西打徳太
郎の使りし来り物と怒る。山武久来指
新や此の囁と云ふじうじ大放送の要の暇を
筆下す、大改每相紙の差為額二枚押

榎原表

毫能合紙一枚、献去来流、新紙新や此
の為四五紙揮毫に云し、新なる田：義
士おと築：付、今天井一枚の板：此書
當腰の四字を考す、何れ如後、簡す
十二月三日、うささ、京都：権り、同を飯
大合のあり、内札利、徹中、里郎の親松
に招く、え林一口、大隈侯とせ、行くことを
流す、於紙を筆下し物と入。

十七日

而反上来り注射を施す。反上余の尿を揆表
しる結果を報じ元氣不似合に如んばく
の事ゆゑし唯聊かばいしんを文句膿を
生するよりつき根絶を要ある事。是れ對す
の注射を多くし本表を印ししぐらじや版
皇宮大觀廿一枚を之に來る。星部り：
つと大隈大觀より來る。西村徳大ら代人秦
宗大ら山陽州の古画柄廿四幅を持
冬展觀の時を福す。吉田秀人社用して來
訪。小本空三より梅。大坂中森儀よりし

榎原製

松其甲を返りしより。入心達まると余の如
はるを返りし。海に出つ。西村者也。
件つとま山をも返りし。杉野向也。印を
見。其の印も返す。自ら心。山途。牡丹。し。之
高。つ。花。江。酒。飲。し。切。り。料。理。心
大友。旅。人。の。塑。像。と。配。付。し。身。の。三。木
武。吉。差。入。物。代。二十。日。牡丹。に。托。す

十八日

雨。朝。来。花。畑。を。歩。す。亀。山。書。三。本。日。木

八幡苗方兩代三十四山拂込中崎子玉の遣
印を輝ひ入日河井松後波方の管一
寸の訪、廿一日放送すまき換安を
放送する仲木久一、郵便(秋後聖死
村井内と梨果大衆と終り来る、十時
出版部：別り幹部会に臨む、午後四
時、明治成辰しの終、増えと、
有、今夜櫻門会を同方館城会のお話合
夏は、録音

榎原製

十九日

明治成辰しの論文を澤宮一と福田
二郵送す、六角字大、来る、
宗八山田海心来る、訪、
頼の揮筆元為、板板日、
和田純と、
葉も、
と物を、
を免と、

宇奈月を渡る、いふも数里溪谷を沿ふて
治才登り、登り、連山の松林をよぎり、さう
ら行く、紅雲あしく時、即早はれ、連山の
高峯、玩ぶ、山、雄偉、甲の赤嶽
豊の赤野馬、連、優、直、正
の山、多き、最、女、有、き
よ、二、五、尺、及、柳、川、若、雷、不、多、う
祝、横、大、也、溪、河、高、嶺、橋、を、架、す、し
り、交、を、過、く、一、方、二、の、路、橋、を、架、す、溪
流、を、下、瞰、く、勢、の、足、を、こ、え、り、深、道、に、ト

ン子、ん、多、く、三、十、七、八、を、数、ふ、猫、又、と、い、ふ、子
舟、の、取、入、口、あ、り、事、務、子、に、想、ふ、附、近、の、景
物、も、と、大、変、す、即、嵐、五、の、の、お、登、三、三、三、と、い、ふ、し
宇、大、五、月、と、い、ふ、七、七、七、と、い、ふ、し、
時、河、を、上、流、に、漸、や、く、溪、谷
の、奔、り、を、見、る、前、面、の、形、貌、鐘、に、似、た、
山、あ、り、高、さ、二、千、八、と、い、ふ、所、謂、鐘、釣、山
こ、こ、の、山、の、一、層、す、北、山、全、部、大、理、石
す、北、山、を、穿、つ、と、ト、ン、と、い、ふ、所、也、
鐘、釣、山、を、穿、つ、と、ト、ン、と、い、ふ、所、也、

まゝ、いんまをトウワク通せぬ、茶店に越ひ
徒歩をて旅元と行かんと思ふ、
この道は道険也、余も四十年旅をて草鞋
を穿ち初めてゲートルもあ脚に纏ひ行
く里路一高険を得石に踏ん越ふといふも
道蓋に踏余行くもなぬ、大腰袋とせし
一行と別れをゆ金に託し、池尾に角七余が
二陸、鐘釣の茶店に午飯を要する谷
魚の味丸七可也、いんまをトウワク入る、
絨袴の意も徒歩崖をを下り、溪谷に

榎原製

架し、吊橋の上、まゝ記念撮影と為
す、橋動揺久しく土のくずれ、去つて崖上平
夷の地、今此の寺、あきなり、まゝと越ふ
て、あき山、釣鐘山を咫尺の間、まゝ
いんま撮影し、又トウワク入る、三時
半頃、延壽寺旅館に達す、此の城久
寺田権三、松村通三、高山、報記、高文
久、寺の趣、一行の内、旅元の跡を指し
て、まゝの道、あき、道、の険を
説く、一同、あき、今、あき、あき、あき

二十五日

時河井安俊様打宗八表旨尾古海斗様
山田清心様迄追の書函二枚川来、山田
貞教石浜心男来、山田書三来、山田
代筆の、三山抄、野田集来、野田
後藤様を奉り、預金七万圓引出す、
追の御書二枚志、信託、牡丹、飲
み、夜、この、由、也、報、お、此、も、軍、部、に
寄、し、と、此、念、字、を、六、枚、送、り、来、り、四、日
浦、吉、の、外、到、り、

榎原製

二十六日

時河井安俊様と申す、時河井、角田敬義
山田清心外二三様、各々、年、京、日、りの、沖、本
常、吉、も、山、陽、の、遺、文、の、字、を、贈、り、来、り、者
書、山、貞、主、目、録、一、冊、川、来、り、寺、給、元、重、正、の、
次、者、三、三、好、本、物、を、贈、り、此、外、久、理、一、冊、理、一、を、
の、分、也、入、社、し、め、た、二、つ、き、お、礼、の、書、も、あ、り、
あ、と、贈、り、也、。色、四、万、圓、月、末、拂、内、あ、り、交、付、福
田、徳、助、此、成、辰、の、装、釘、二、つ、き、来、送、り、来、り、
追、行、札、の、字、本、書、一、冊、送、り、大、阪、の、橋、本、と

人形木の展覧に津列と嵯峨せしむ、天麩
都虎より是合者多く、彼前と椅子を設
け七合席とす、先から若一の芝居を思
ハル、又と多し、家族の者、筒井の殿
供を重宝の志、意を古傳に托す、猶も、度
瀬音橋、試状を是、又

二十八日

日

晴、二人高橋、席、余の押、意を、おめ、所
石を懸、和田萬を、と、米、筒、二、三、の、人、の、囃

こ、座、し、敷、紙、揮、毫、以、次、合、の、勝、候、ま、茶、下、ら、未
梅、和、田、に、送、向、願、候、彦、次、郎、より、文、晁、を、送、り
圓、行、を、と、未、さ、る、午、後、外、出、お、と、贈、い、物、宅
後、又、押、毫、毫、四、時、半、上、り、替、差、公、軒、に
赴、く、今、夜、早、大、立、段、部、に、連、一、采、科、の
講、義、紙、を、若、刊、と、し、其、の、執、業、
者、四、十、君、を、招、き、お、父、の、為、め、合、合、
と、後、余、と、講、義、紙、を、書、き、一、つ、き、
二、三、の、心、を、演、説、し、遊、む、向、來、多、仲、
梅、士、の、演、説、耳、り、九、時、半、也、佛、大、礼、準

傍の町内より書二封し若干の空の隙を
ちりり愛犬武留の墓を化えんとして其
墓址を著し日本石門分社の所南
筆受領

二十九日

小向野人劉應泰来り揮毫と書し松本喜一
ち来り同命の過敷の故を同考故也其の
為め無喜を志し来り日本石門の小作井清
平「時務一針」の投箱をもちこむ識しと還り
吉田天の人合社の案件のとき来り流演劇

榎原製

楮抄紙の記念回巻を贈り来り、五月何日
お侍(道)り和氣(在)美(美)の傍敷部を贈り来
り直り後日、以後白井三郎、柳毫を贈
り来り、夜半族分館に文の協会の例合
をいふとき零枚を石門一七里校膳美の函
海史蹟探訪法を写し、マカラ、レヤ、
シヤ、ワ、ベル、レヤ、等日本に文海あり貴
頭、就特と説くべきあり、十時合を閉
づ

三十日

而、高橋馬、押見光と交付、奉宗大ら、
物、三付束の二、別と共く、新打總太を
日考の、書き、と、録、額面と交付す、日
本、り、の、虎、の、皮、一、針、の、二、の、の、一、
の、海、を、草、し、う、村、山、秋、海、来、接、大、津、久、三、上
リ、十、日、の、切、手、を、送、く、山、四、教、城、と、し、来、出、
の、流、成、辰、の、政、の、校、正、相、を、一、校、了、午、後、
光、を、は、り、を、三、紙、に、拍、を、送、り、て、送、り、

榎原製

三十一日

此、日本、の、り、の、依、井、清、ま、あ、一、箱、を、投、す、今、相、
海、色、成、次、の、り、本、林、脚、美、村、の、其、伝、を、結、定、
日、付、ぬ、ち、山、の、大、隈、部、に、到、り、日、家、也、花、の、
書、前、と、表、り、を、送、り、四、と、七、巻、物、を、送、り、ま、さ、く、
検、別、と、つ、と、の、午、後、二、時、余、光、の、由、書、を、
大、字、久、三、花、新、山、湯、北、花、み、墨、山、丸、の、
後、送、り、ぬ、見、と、一、文、の、書、拍、を、送、り、

二十一日

一日

晴長井御心不花高草坪の初行の首端、題
字と録す、大津不花山陽山入幅、題詞を
録す、田中穂積其訪、各校の件、三月多時内
徹す、徳田貞敬其、稿、新編六山三八と、架
果大おと寄を来り、出版部と、近刊三種記
本、午後迄を付、先出、近、幾、彼の、映、意、
せん、山、出、田、原、尾、做、す、四、原、柔、未、三、
来、訪、物、を、贈、り、酒、を、送、り、来、訪

榎原製

二日

雨、田代亮以来派、改上、山、尾、其、う、注、材、を、施
す、田村本林、師、其、訪、文、の、古、院、の、行、法、河、題、を
内、議、す、彦、次、の、歌、海、甚、を、送、り、者、画、骨
甚、終、然、西、村、花、山、陽、骨、甚、の、余、八、級、外、文
掲、出、せ、り、五、部、西、村、郵、送、す、種、村、高、八、出
次、部、の、要、件、二、つ、と、十、年、迄、甚、漢、字、を、抄、り、各
花、の、程、を、送、り、料、四、流、と、し、天、平、八、形、才
五、回、御、布、し、十二、日、お、高、坂、二十、歌、合、を、い、ら、り、集
内、到、り、午、後、又、八、の、為、り、揮、毫、数、葉、成、り、

城後下婢の電とて押とさう来り、山田殿城
と書状を為す。

三日

天長節

吃朝来旅宿を草子、六切六七枚押書
丹兵衛平、出状を為す。西村徳次より
り、あち白井三、中、余の物、是、謝意、別、
心夏と光と、味、を、ち、山、の、入、墓、を、展、し、
て、書、を、あ、げ、飯、し、新、樂、生、の、映、意、と、親、
入、り、ぬ、く、ち、木、茂、且、に、記、

榎原製

四日

吃朝来を草子、劉、應、泰、に、押、書、立
枚、交付、上、の、長、承、次、来、海、東、送、る、中、
の、信、を、出、的、カ、ん、と、告、げ、材、料、と、も、と、
前、原、奥、平、の、遣、墨、の、速、原、と、関、係、
ある、もの、を、示、す、上、の、山、の、墓、と、
贈、り、宇、都、宅、其、時、と、葡萄、と、
山、の、也、来、り、前、園、の、花、壇、を、振、張、す、日、本、
の、山、作、井、法、平、と、と、来、り、且、つ、余、の、寄、
を、お、め、し、り、記、を、も、送、り、来、り、城、後、瀬、邊、

勅三ノ瀨一ノ末次六ノ新官其此未亡人未活
旋取も者あり出改部一ノ山利二部配本
と受く陛下花右内親名御安着

七日

吉山四時心木村藤美樹来訪十時をこり
刷の筆段令に臨む一時は程と協次し高田
少入江と出改部の程お後任の程こり
内藤早大に別二時と枝親の妻あを
臨み好め方一深う改山に聞し打合を

榎原製

あす未三ノ末次六ノ新官其此未亡人未活
旋取も者あり出改部一ノ山利二部配本
と受く陛下花右内親名御安着
二市と柱七新設の高味成輪舞杖の甲
時こ見え

八日

知今解九時吉山の大徳邸へ宿を前り
引つても其遺附すへき者高田と米のを

夏より、後迄、或は、外へ、史の、来り、午後
二時、切書、早稲田の、報、来り、早稲田の、報、来り、
つ、成る、村上、家、高橋、の、信、を、刊、す、
立川の、信、を、刊、す、小倉、を、刊、す、来り、
田舎、老、早稲田、大、云、来り、味、本、古
代、松、を、刊、す、

九日

陰、重松、建二、和田、為、え、か、托、を、受、け、小、林
堅三、子、訪、河、井、家、後、来、間、阪、口、献、吉

新、の、報、を、刊、す、去、更、送、の、り、物、を、報、す、且、つ
托、を、受、け、吉、田、秀、久、社、報、の、り、小、久、江、外、一
出、政、部、の、密、件、の、り、交、り、再、訪、稲、田、謙、と
り、来、去、尾、依、保、獲、り、海、濱、業、記、を、言、せ、来、り、
文、を、付、け、出、湖、沼、の、報、を、刊、す、
ト、ム、ス、ケ、ピン、を、受、け、松、を、刊、す、高、橋、師、
の、来、り、

十日

晴、今日、京都、に、松、を、刊、す、即、ち、大、典、の、行、の、り、日

也幸い好時と云ふ日に出ししと能く文に
一とせ三月田を初めに訪ふと出版部又の
主事の事を協談し十一時切も海田へ
あつた車間平山をとりし青函を主目
録一も到来尾山井煙の外支と進新
年と換り目のおす、午後長井、城心
依教さん信押書と交付、益田案を
ラジオの放送とと海大典の御挨拶を
三時起午一七、若嵐と唱ふ、

榎原製

十一日

日

朝、朝来雑誌と並し、夜田原と、余の持
の海者刊、表も古洋大書家、簡表社
の打合、来、種打家ハ、訪、出版部、
二つ、内議、其、橋、二、投、簡、西、村、徳、大、
月、あ、を、刊、し、林、江、巻、石、の、派、を、山、の、表、中、と
托す、中田、通、各、事、の、概、を、好、く、出、稿、面
二葉、短、る、午、後、閑、し、乗、し、も、納、入、の、道、具、
と、整理、す、海、田、の、校、友、岸、村、寛、と、来、信

七柳瀨の事、後田書、四本に投す人キ原
稿を著し、四時成る。重栢徳二、細考、浦邊
列す

十七日

時、瓜、山岸本、徳武太の計、列す。四本記者、原
稿も其の、種村、又江出、故部、の、事、何、付、未
流、不、存、空、三、免、山、素、一、三、院、七、列、の、表、壯、を
托、し、何、迄、迄、栢、家、廟、造、里、墨、卷、成、ふ、午
後、散、果、和、化、の、栢、を、播、ひ、り、を、栢、神、田、迄、の

榎原製

奉祝、氣分、三、院、浴、ま、を、い、各、竹、柳、興、一、七、果
七、廻、り、大、り、振、ふ。

十八日

時、平、山、名、の、利、助、未、り、後、花、を、山、陽、米、批、細
香、女、史、の、稿、并、附、録、二、冊、一、校、を、贈、る、事、
又、人、須、美、雪、を、書、(三、冊、)を、寄、る、主、目、二、を
投、し、り、を、栢、和、を、著、し、り、(三、冊、)の、事、及
日本、人、大、隈、彦、の、政、治、乘、出、し、と、題、し、り、
論、評、し、り、所、於、し、余、の、言、ん、と、す、り、

不を云ふ世人の見るも亦余の兄の所と異らう
さる也休めども必於怪我あり嗟木炭十五散花を
ふ午後とも雨降り、柏木潤三と来り、後
後由山陽米批細書は稿を誤り、公法重
極もは復思ひ。

十六日

和、鮮人越炳傑余の方を請ふ筆、三枚を贈
つて去る、花村宗八来り、出政部貞武の正
本を個々に振き、出政部を後増員、この
き懇諭する所あり、新島の果物高小山

藤原製

父子来り、物を贈る、午十五と供として、
雅海を筆、山、美山素一二三の書画を
天、意のよき、午後潤三来り、七起、
京都とも大隈屋其他より七枚の法、

二十日

晴、午後庭園のお茶を燃んとす、横尾文の書
も雅志、那外と定りて、此内、余の
えとする、江守と、姉梅三、河橋の關係の
証が収めてあることを、海、武治印

森脇美村より大隈家寺前松野氏の方
針と堀減す十時出政部の重役合に
臨り本則の決并総并元師役三名増次
石二つとき定款改正の事、退賜の事、
程改正等を試治し一時の拘り、市井
四谷税務署より改訂代人を出し所新
築家元の意義を説く人となす、
續税を徴する旨の指示を多く、
難税を著しと時を納す、
岸本能武太の先列式、
代人を出す、日活印刷会社の新株
調子を

榎原表

録

二十一日

而利来旅券を奉り、文行堂、
文雄も来也、京都大文子
す、吉田秀人來談、早大板
の意向を告ぐ、
を訴へ来り、
内万圓、
を奉り、

代を讀む。寝後又文章春秋を讀む。

二十二日

時、往打宗へ出政部の件につき今井一印
早稲田の校に書の内容をもとめて、且つ押巻
を治つてきた。旋風を筆して久次男よめ
年表をせよと、よめ二時早大の校初春會
に臨む。本の大体の方針決ま。龜山素三
は古画代の画五十四幅あり。今次三人分を
善後といふ。善木十枚画物。る二十の

棟原表

吉の素へ。交付。因大ら。素。素。素。

二十三日

時、龜山素三山陽古画幅と松本方画を
送つてきた。出政部の武田社名に保
険を附する件につき、先を付を出
版部へ。物を送る。松本方画と松本方
日映畫を見せし。京都の谷村一太
郎と松本方画と京都松本方の松本方
目録を送り来た。而打徳方。山陽

先を以て教養、二時物申、辨毫を今并
七部、交付、時後記し、未簡、夜に入、市
の敷、刻り、塾生の為め、大早、飯味を落
し、九時半頃、又吹着きし、廿九の亡久の為
め、追悼の会を、西村徳
大らと、出状も、あう

二十七日

時、植木を三人引つ、きき、朝来、旅、旅を、
す、往、打、宗、八、来、返、結、柄、傑、相、高、と

榎原製

世、六、十、時、登、校、の、祝、委、更、今、臨、六、四
時、討論を、續け、し、返、り、に、返、り、廿九の
舞、合、を、約、し、と、散、す、由、尾、後、中、の、礼、四、中
五、訪、久、未、邦、武、而、九、十、の、祭、三、延、を、開、く、三、付
五、の、秩、あ、う、方、何、人、を、選、り、五、時、高、田、後
七、に、相、え、早、大、毛、友、後、と、成、く、大、隈、今、後
に、祝、の、集、を、と、ま、り、

二十七日

時、直、の、給、仕、次、中、の、祝、物、を、送、り、後、日、献、去

旅の用事と猶見方の新築の由を
二列の十数點の所を猶心付き二級
高四五の物を購置せし出陣部とて余の
印後勘定者到来、日本郵船の配南飲
ぬ

榎原製

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

稜原製

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

榎原製

